

自然と歴史を楽しむ道しるべ！

# 筑波山麓 フットパス



フットパスマップ

神郡～六所～筑波コース

約 6km

万葉の時代からの歴史を巡って  
歩く小道 Foot Path

筑波ふれあいの里から見る筑波山(表面 C-3)

つくば道(神郡)(裏面 A-3)



筑波山神社

筑波山中腹にある、全国屈指の  
由緒ある神社。筑波男神伊弉諾  
尊(いざなぎのみこと)、筑波女大  
神伊弉冉命(いざなみのみこと)2  
柱を御祭神とし、万葉の昔より広  
く信仰を集めている。

江戸時代には、筑波山は江戸から見て鬼門(北東)にあたることから、徳川  
幕府より格別なる信仰が寄せられた。明治維新後、神仏分  
離を経て明治8年(1875年)に中禅寺大御堂の跡地に  
筑波山を御神体とする筑波山神社の拝殿が完成。

昭和3年(1928年)の改修を経て、現在に至る。  
光誉上人が従軍した大阪の陣で負傷者に塗った薬が筑波  
山名物ガマの油の由来と語られ、「筑波山ガマの油売り口上」  
は伝統芸能として、筑波山神社の境内などで見られます。



家康が江戸に幕府を置くと、筑波山は江  
戸城の「鬼門(北東)の守り」とされ、中腹の  
中禅寺が祈願所に定められました。後に、家  
光による堂社の一新を機に、つくば道や門  
前町が作られ、参詣者で賑わうようになりました。かつての中禅寺  
に祀られていた千手観音は、昭和35年に復興された筑波山大御堂  
に安置されています。

現在の東山地区に残る一本道は、常陸国の国府があった石岡へと  
続く府中街道といわれ、筑波山の古道の1つとされます。その東方  
には、白滝、夫々ヶ石(ぶじょがいし)、六所皇大(ろくしょこうたい)神宮跡、蚕  
影(こかげ)神社など、万葉の時代から続く名所もあります。  
ゆっくり歩いて、麓の古道を楽しんでください。



筑波山大御堂

スタートは、筑波山神社の御神橋(ごしんきょう)前から。  
「筑波(御神橋)」の道標を右に見て、  
東の小道を進みます。  
道沿いにならぶ売店を楽しみながら、  
道なりに白雲橋(しらくもはし)をわたって東山地区へ。

筑波山神社から  
スタート



して「金色姫伝説」があり、天竺から桑の舟で流された姫が、この地で権太夫（こんだゆう）夫妻に助けられ、病で亡くなった後、姫は棺の中で蚕となり養蚕を伝えて恩返しをしたといわれています。毎年3月28日は蚕糸祭、10月23日は秋の大祭が行われ、賑わいます。

